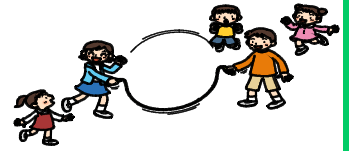


わくわく橘っ子

橘小学校

人権教育便り NO. 11

令和7年3月



人権問題講演会 ～落語家 桂七福さんに、言葉の大切さを学ぼう～

2月18日(火)、は、徳島県出身の落語家、桂七福さんをお招きして、人権落語講演会を実施しました。講演会では、言葉は力をもっていること、特に、「相手にうまく伝わらないとき、意味がずれて伝わりそうになったときには、訂正すること」が大切だと強調されていました。また、「相手が言ったことを訂正してきたら、一度は受け止めて相手の気持ちを想像すること」がコミュニケーションのこつだとおっしゃいました。

落語の後半は、落語の特徴や魅力について語ってくださり、最後に有名な落語「動物園」を披露してくださいました。生の落語を聴くことが初めてという子どもたちがほとんどで、会場は笑いにあふれました。笑いを通して、日頃の自分のものの考え方は、固定観念や一方的な見方にしばられてはいないか、あらためて考えるよい機会となりました。参加いただいた保護者の皆様、ありがとうございました。保護者の皆様の感想を一部掲載いたします。

保護者の方の感想

○「ふつう」とは何かを考えさせられました。「ふつう」という言葉が、言い方や捉え方によって、よくなったり悪くなったりという話が印象的でした。普段、コミュニケーションツールとして何気なく使っている「言葉」がこんなにも大切なツールなんだと実感しました。



○いつも家族で「言葉は一度出してしまうと引っ込めることはできない。だから、よく考えてから伝えるようにしよう。」と話し合っています。子どもにも分かる楽しい落語で伝えてくださり、ありがとうございました。

○自分も、人と言葉のすれ違いに悩んだことがありました。これからも「対話」を大事にしていきたいと強く思いました。

○自分と相手の言葉がずれたときの対処法を繰り返し説明してくれて、子どもにも伝わったと思います。楽しい時間をありがとうございました。



○言葉には言霊があります。否定の言葉は自分にマイナスの暗示をかけるのと同じという話を聴いて、その通りだと思いました。「うどんの食べ方」、おもしろかったです。

○「虎とライオン」の落語に大笑いしました。今日は、笑いの中に大事な内容が盛り込まれていて、あっというまの一時間でした。

～阿南市人権教育・啓発市民講座～

2月25日(火)に、阿南市文化会館で開催された阿南市人権教育・啓発市民講座に、本校・PTA人権教育推進部の方が参加くださり、感想をよせてくださいました。ご紹介します。

講師 鳴門教育大学大学院教授 SAG徳島代表 葛西 真記子さん
演題 「性の多様性と人権」

セクシュアリティ・ジェンダーの問題は、これまでの日本や世界の歴史の中では、間違った考えや信念があり、LGBTQ+の方々は差別やいじめの対象となってきました。

私たちが今日からできることは、性の多様性に関する本を読んだり、イベントに参加して、基礎知識を身に付け、普段の自らの発言を見直したり、周りから相談されやすい人になったりすることが大切だと思いました。